



町担当者からペレットボイラーの説明を受ける参加者（森のこだま館）

新エネの取り組み学ぶ 町内一周の見学ツアー

8月12日、町主催の「くずまき高原クリーンエネルギー施設見学ツアー」が行われ、町内外から13人が参加しました。町担当者の案内の下、くずまき高原牧場畜ふんバイオマス施設や上外川高原風力発電所、グリーンテージの太陽光発電、森のこだま館のペレットボイラーなど、4ヵ所7施設を見学。参加者は、メモを取りながら熱心に説明を聞き、町の取り組みに理解を深めました。

一関市から参加した千葉奈央さん（茨城大1年）は「地域活性化の取り組みに興味があり参加しました。山間地という地形の特徴を生かし、資源循環の仕組みがよくできていて驚きました」と感想を述べました。

集中豪雨や台風へ備え 消防団が水防工法訓練

集中豪雨や台風の影響で川が増水しやすくなる出水期に備え、町消防団（遠藤正樹団長）は8月24日、栗山地区の馬淵川河川敷で水防工法訓練を行いました。

訓練には町消防団本部と第2中隊（第11～16分団）の団員ら約70人が参加。葛巻分署員の指導の下、団員らは積み土の工法や救命胴衣着用訓練、救助用の浮き輪の投入訓練など熱心に取り組みました。

閉会式で鈴木重男町長は「全国的に集中豪雨による被害が増え、多くの被災者が出ています。災害時には自らの安全確保も考えながら活動していただきたい」と各出動隊に呼び掛けました。



救助用の浮き輪の投入訓練を行う第2中隊の団員

音を楽しみ楽器を学ぶ 吉ヶ沢児童館で音楽会

岩手町在住者を中心に構成される音を楽しむ会（西田拓広代表、会員15人）は7月28日、吉ヶ沢児童館で音楽会を開き、同児童館と冬部児童館の幼児、吉ヶ沢小の児童ら約30人が楽器とふれあいました。

この日は同会のメンバー4人が訪れ、「小さな世界」や「ミッキーマウスマーチ」などを演奏したほか、メンバーが持参した楽器4種類の試奏体験が行われ、子どもたちはそれぞれの楽器が奏でる音を楽しみました。

ユーフォニウムの試奏を体験した菊池千弘さん（吉ヶ沢小3年）は「いろんな音が出てステキ。大きくなったら吹奏楽をやってみたい」と目を輝かせていました。



トランペットなどの楽器を試奏する子どもたち



林業体験を通じて交流を深める首都圏と町内の子どもたち（こいわの森）

キッズニアinくずまき 木材利用の重要性学ぶ

本町の森林で学び、体験する「アウトオブキッズニア」は8月5日から7日まで行われ、首都圏の児童生徒20人と小屋瀬・吉ヶ沢小の児童12人が参加し、交流を深めました。「木を切って使うことは健康な森づくりに必要なこと」をテーマに、間伐や枝打ち、被災地に届ける薪の収穫などの林業体験を通して、木材を積極的に使うことの重要性を学びました。

埼玉県新座市から参加した野村美名さん（新開小6年）は「森林で木を切るのは初めて。大変だけど楽しい」と話し、畠山春輝さん（吉ヶ沢小5年）は「みんなで協力して大きな木を切ることができた」と笑顔を見せました。

眠気覚ます冷たい牛乳 交通安全めざまし作戦

町交通安全対策協議会（会長・鈴木重男町長）は8月1日、夏の交通事故防止県民運動の一環として「交通事故防止めざまし作戦」を、土谷川地区の国道281号沿いで行いました。

町交通安全協会や町交通安全母の会、岩手警察署、町交通指導隊、小田防犯少年隊のメンバーら約40人が参加。この日はミルンちゃんも登場し、ドライバーに牛乳やチラシを配り、安全運転を呼び掛けました。

松下智哉さん（葛巻小6年）「雨で大変だったけど頑張って交通安全を呼び掛けた。牛乳も喜んでもらえてうれしかった」と充実した表情を見せました。



ミルンちゃんと一緒に交通安全を呼び掛ける小田防犯少年隊



縄ないを指導しながら交流を深めるくずまきかだる会のメンバーと子どもたち

縄ないが世代間を結ぶ かだる会が交流会開催

くずまきかだる会（藤岡一雄代表、会員18人）主催の夏休み世代間交流会は8月5日、総合センターで行われ、葛巻小や小屋瀬小の児童と保護者ら30人が参加し、縄ない体験を通じて交流を深めました。

同会のメンバー8人が参加者一人一人に丁寧に縄ないを指導。児童らは手のひらでわらを転がすようにして縄ないをし、その長さを競っていました。

参加者で一番長い5.76メートルの縄を完成させた野里陽向さん（葛巻小1年）は「縄ないは初めてだったけど、優しく教えてくれたおかげで思ったより簡単にできました。お家に帰ってから、またやってみたい」と笑顔で話しました。